埼愛キムチ新聞

第35号
2026年2月7日
販売会毎発行
（努力目標！）
kimuchi@saiai.net

■〇〇から見る朝鮮学校　その⑩

❖《ウリカペ ブックトーク～『朝鮮学校児童・生徒たちの作文集』を読む》での感想・その2

★二〇二五年十月四日、東京・新大久保にある文化センターアリランでウリカペ主催のブックトーク『『朝鮮学校児童・生徒たちの作文集』を読む」が行われました（詳細は『埼愛キムチ新聞・第三三号参照／「有志の会」HP掲載』。その場で読まれたスタッフの感想を紹介します。

『コッソンイ』・「名前のない『賞状』」（キム ソヨン）

朝鮮学校が、高体連が主催する公式試合に出場できるようになったのは、大阪朝鮮高級学校(当時)の女子バレー部を巡る出来事が発端となり、動き出しました（埼愛キムチ新聞第四号二〇二一年一月一六日発行より）。

わたしは中高陸上部だったこともあり、貰った賞状には自分の名前、種目、記録、そして学校名が記されていることは当然であると認識できる立場にありました。

しかしキムソヨンさんは、都大会出場権を得られる自己新記録を出したにもかかわらず、手渡された賞状には種目、記録、学校、名前すら書かれていないただの「賞状」でした。それは自分がここにいるのに「いない」ことにされてしまうこと、存在が認められていないことと同義であり、計り知れない精神的なダメージに直結することは、想像に難くありません。

キムソヨンさんは、『わたしがいまよりももっと良い記録を出して、必ずやウリハッキョの名をとどろかせてやる！』と自身を勇気づけながら練習を重ねていきます。

しかし、本来なら出場権はすべてのこどもたちに平等にあるべきもので、出場権を得るためにひとより努力しなければいけないとキムソヨンさんに思わせてしまう構造は、明らかにおかしいものです。本来なら、自己記録更新を目指して部活動に励むことができる環境と時間、精神面にあるはずなのに、出場権がない現実と、その現実を変えるべく都議員と話す機会を得るなど、キムソヨンさんに大きな『負担』がかかっています。もちろんこの負担は、言うまでもなく負う必要などなかったものです。こうした『日本人』の差別による弊害は、現在進行形で続く補助金停止による差別と地続きにあります。

朝鮮学校の子どもたちが子どもたちらしく、生きていくにあたって不必要な重い『負担』を負わせている現実を、わたしたち『日本人』が終わらせなくてはいけません。

（金澤）

『コッソンイ』のご購入は、
⇒ Amazon（在庫切れや”高騰あり”）
⇒ 池袋のジュンク堂や新宿紀ノ国屋には常に在庫が置かれている（もしくは取り寄せ可能）
⇒ soriyomoyora@gmail.com／編集事務局に連絡がすれば、1870 円で発送

★埼愛キムチについて★

2010 年度末、埼玉県は、「財務の健全化」を口実に埼玉朝鮮学園への補助金の支給を打ち切りました。また、埼玉県議会は 2012 年に「拉致問題が解決するまで補助金の支給を行わない」という附帯決議を行いました。これは朝鮮学校に通う子どもたちとは何ら関係のない外交政治上の理由を持ち出すことによる不当な差別に他なりません。2018 年度に県が財務状況について、「健全性が確認できた」と学校に通達した後も 支給停止は続いています。このような非常に厳しい状況の中、埼愛キムチは少しでも学校運営に寄与するため、“利益全額カンパ”の活動を行っています。美味しいキムチとともに、朝鮮学校支援の輪が広がりますよう、ご協力よろしくお願いします。